1963年7月20日第3種郵便物認可　2025年5月1日発行　第63巻第5号
毎月1回1日発行　ISSN 0289-3622

オーディオの総合月刊誌 ステレオ

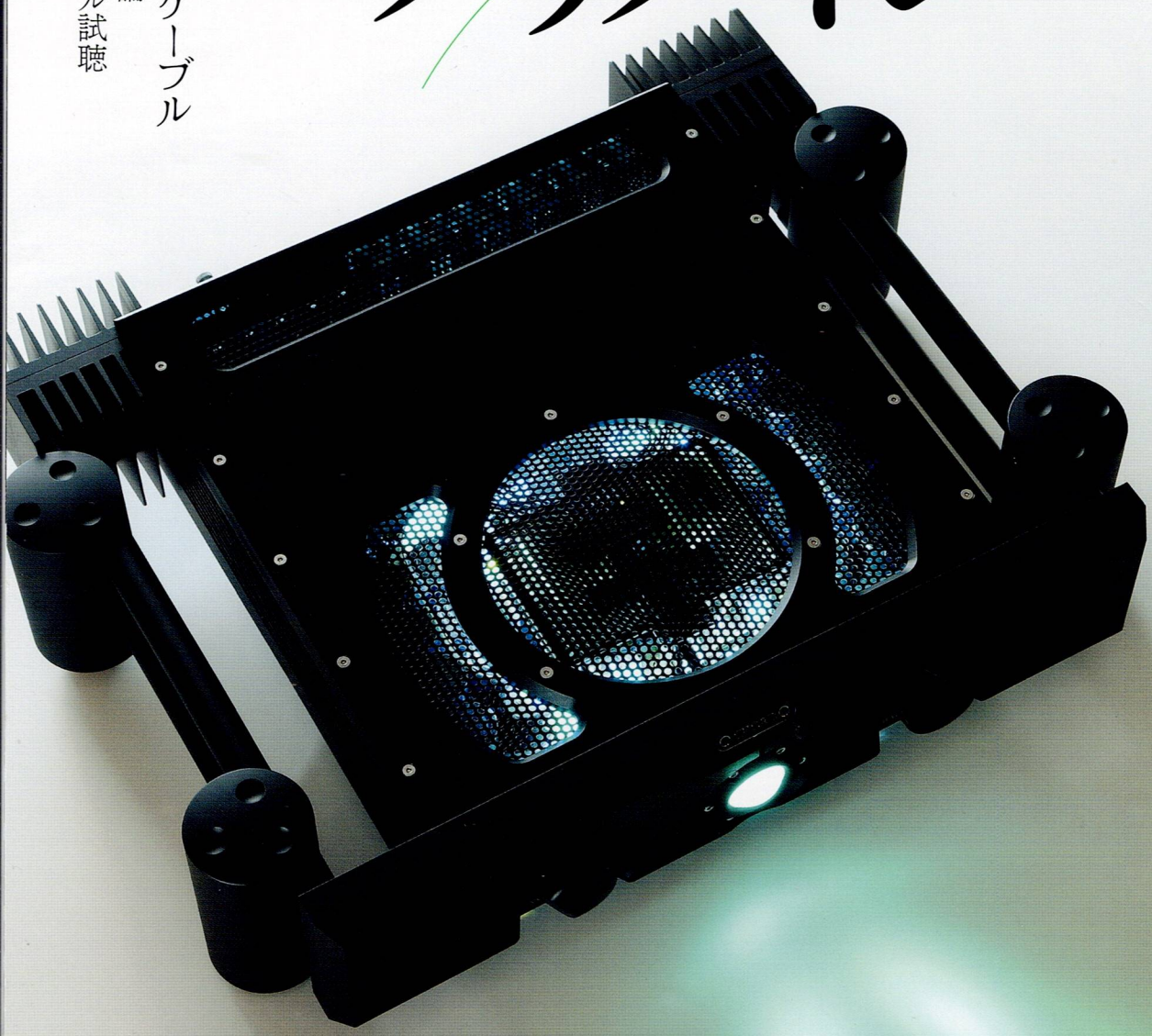
stereo

2025 05

特集 実力派プリ・メインアンプ一斉試聴
セパレート級ハイエンド・プリメインの世界

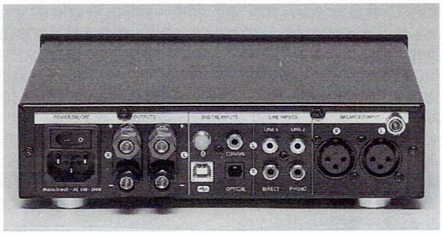
進化するプリメイン

[特別企画]
いまこそ見直したい電源ケーブル
・メーカーに聞く電源ケーブル論
・懐疑派と音楽派によるケーブル試聴



クリーク 4040A ¥200,000

〈SPEC〉●出力：55W（8Ω）、110W（4Ω）両チャンネル駆動 ●周波数特性：5Hz～50kHz ±3dB/10Hz～20KHz ±1dB ●全高調波歪率：<0.045％ ●S/N比：105dB A ●入力感度：525mV for 55W into 8Ω ●ゲイン：32dB or x40 ●クロストーク：>68dB at 1kHz ●プリアンプ入力：RCA ×2、XLR×1 ●パワーアンプ入力：メニューオプションによるパワーアンプダイレクト ●デジタル入力：同軸×1、光×1、USB 2.0×1 ●DAC：ES9018k2m Sabre DAC. ●スピーカー出力：4㎜バインディングポスト ●スピーカー出力インピーダンス：<0.02Ω、20Hz～20kHz ●ダンピングファクター：>100 into <0.04Ω ●消費電力：350W ●寸法：W215×H60×D255㎜ ●重量：2.2㎏ ●問い合わせ先：ハイファイジャパン mail@hifijapan.co.jp



耳にやさしくバランスも良いアナログライクなサウンド

ちょっとコンサバな家庭用オーディオの典型かも知れない。コンサバの理由は、相方に同寸法のCDプレーヤーが用意されていることと、別売にMM／MC対応のフォノボードが用意されていることだ。もちろん本体にはESSのDACを搭載し、デジタル系への抜かりがない。あらゆる音の楽しみに対応していこうとする姿勢は、まさにクリーク流といえる。基幹部はインフィニオンテクノロジーのMERUSクラスDのデジタルアンプを採用、小型ながら55W／chと家庭用としては充分な出力をもつ。それを支える電源は最新のパルス電源だ。

さすが英国育ち、音の聴かせどころがうまい。低域表現はコンパクトだが、全体をバランスよく聴かせてくれる。前出のアーカムでもそうだが、派手さがなく落ち着いた、聴きやすいサウンドである。特にバーバラやエンジの声は中央に定位し、耳にやさしい。全体にアナログライクな音と言っていいだろう。大音量も充分にこなすのだが、小音量でデスクトップに使うのも本機の活かし方のひとつだ。（岩田）

この落ち着きのあるサウンドは入念なノイズケアの賜物か

クリークの新たなプリメインの形を示す本機は、正方形に近い215×255㎜サイズの中へ、密度高く回路が組み込まれている。カタログに表記はないが、MOS FET内蔵のクラスDアンプICとスイッチング電源を組み合わせることで、DAC回路やBluetooth機能をもたせつつも、このコンパクトサイズを実現しているようだ。

サウンドには、独特の味わいがある。ノイズへのケアが入念なのか、抑えの効いた落ち着きのある音なのだ。少し陰りのある音色と、塊感のある低域が印象的である。一つ一つの音をむやみに解像して分離しすぎない点も、落ち着いた表現に繋がっているようで、独自の方向性を感じる表現を実現している。この辺りの、ある種の箱庭的な表現は、クリークならではともいえる。小型のスピーカーと組み合わせて、クロースかつインティメイトに音楽を楽しむ用途が思い浮かぶのだ。機能性やサイズ感は現代風だが、ブランドのエッセンスや主張をしっかりと感じる製品だ。（生形）